

ブドウ新品種「ブラックビート」の特性を 活かした無核大粒生産技術及び房づくり法

農業研究センター 果樹研究所落葉果樹研究室
担当者：加久るみ子

研究のねらい

本県のブドウは、大粒系紫黒色の「巨峰」や「ピオーネ」が主力品種（栽培面177ha）となっており、梅雨明け後に収穫期を迎える雨よけ栽培では、食味は良いものの、着色期が高温であるため着色不良（赤熟れ）が大きな問題となっている。

そこで、雨よけ栽培での着色不良（赤熟れ）を解消できる特性を持つ優良品種を選定し、消費者ニーズの高い無核で大粒の果房栽培技術を確立する。

研究の成果

< 来歴 >

熊本県宇城市不知火町の河野隆夫氏により、平成2年に「藤稔」に「ピオーネ」を交配した交雑実生の中から選抜されたもので、平成16年6月に品種登録された。

1. 特性

開花期は「巨峰」と同時期であるが、減酸ならびに着色が良く「巨峰」より10日程度早くから収穫することが可能な大粒種である。「巨峰」より糖度はやや低いが、酸含量が少ないため、あっさりした味で食味良好である(表1、表2、図1、写真1)。

2. 無核栽培技術

満開～満開3日後にジベレリン12.5ppm溶液を花房浸漬処理することにより無核となり、着粒が安定する(表3)。肥大促進目的のための2回目ジベレリン処理時(満開10～15日後)に、フルメットを10ppm混用するとさらに果粒肥大が良くなる(表4)。

3. 房づくり

花穂の先端を2cm程度切り詰め、その上を利用すると、同じ花段数の花穂先端を利用したものより、房幅が広くなりボリューム感のある房を作ることができる(表5、写真2)。

無核栽培において、1房当たり着粒数の違いや、利用する花穂の部位や長さによって着色や糖度等果実品質の差は見られない(データ略)。

以上のことから、花穂先端を2cm程度切り詰めた上側を利用し、無核処理にジベレリン12.5ppm、肥大促進処理にフルメット10ppm加用ジベレリン25ppm溶液を花(果)房浸漬することにより、着色が良く無核で大粒のボリューム感のある房の「ブラックビート」を作ることができる。

普及上の留意点

1. 着色が良好なことから、早採りにならないようにし、食味が良くなってから収穫を開始する。
2. 着房数が多かったり1房重が大きくなると、果皮色が劣ったり糖度が低下することがあるので、着果過多にならないように留意する。
3. 気象条件によっては「巨峰」に比べて裂果の発生が多くなるので、成熟期に土壌水分の急激な変化が起きないように留意する。
4. 花穂の利用部位及び利用長により果房の形状が異なるので、販売方法等により利用部位と長さを選ぶ必要がある。

[具体的データ]

表1 開花期及び収穫期の比較

品 種	H20年	H21年
ブラックビート	開花期 5/20~5/26 満開日 5/23 収穫期 7/29~	5/11~5/18 5/15 8/8~
巨 峰	開花期 5/20~5/26 満開日 5/23 収穫期 8/8~	5/12~5/17 5/14 8/18~

注)作型:両品種とも雨よけ無核栽培

熊本県農林水産部

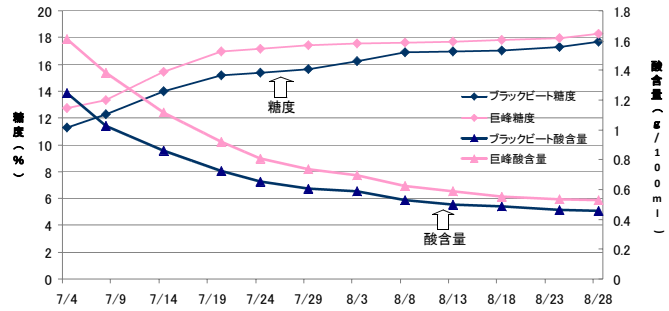


図1 ブラックビート、巨峰の糖・酸の経時変化(H21 無核栽培)

表2 ブラックビートと巨峰の果実品質(H21)

品 種	1粒重 (g)	果皮色	糖度 (Brix %)	酸含量 (g/100ml)	1房重 (g)	着粒数 (粒/房)
ブラックビート	16.9	10.1	16.4	0.49	604	35
巨 峰	13.6	6.5	17.6	0.51	415	31

注) 両品種とも無核栽培。ブラックビートは:無核GA12.5ppm、肥大促進GA25ppm、巨峰は無核GA12.5ppm+FL5ppm、肥大促進GA25ppmで処理。
収穫日 ブラックビート:8月17日、巨峰:8月25日

表3 無核処理濃度と無核率・着粒率(H21)

無核処理 (1回目処理)	着蕾数 (蕾/房)	着粒数 (粒/房)	着粒率 (%)	無核率 (%)
GA12.5ppm	66.8	56.6	85.9	93.1
GA25ppm	66.9	55.5	83.8	94.2
無 処 理	74.3	42.1	57.2	—



写真1 「ブラックビート」と「巨峰」の無核果房

表4 肥大促進処理濃度と果実品質(H20年)

肥大促進処理 (2回目処理)	1房重 (g)	着粒数 (粒/房)	1粒重 (g)	果皮色	糖度 (Brix %)	酸含量 (g/100ml)
GA25ppm+FL5ppm	628	39	16.3	9.4	17.9	0.42
GA25ppm+FL10ppm	646	38	17.1	8.9	17.8	0.41
無 処 理	301	38	12.9	9.3	19.2	0.48

注)8月14日、8月20日に収穫した果実の平均値

表5 花穂利用部位と果実品質の関係(H19)

区	1房重 (g)	房長 (cm)	房幅 (cm)	着粒数 (粒/房)	1粒重 (g)	果皮色	糖度 (Brix %)
先端摘取区	560	15.6	11.1	35	16.0	9.7	18.4
先端使用区	525	16.5	9.8	34	15.2	9.9	18.3

※果皮色は農林水産省ブドウカラーチャート値使用
※花穂先端摘取区:花穂先端を2cm程度切り詰めその上4~5cm(12段程度)を利用
※花穂先端利用区:花穂先端3~4cm(12段程度)利用
※調査は平成19年8月20日に収穫して行った。



先端摘取区(左) 先端利用区(右)
写真2 花穂利用部位による房形の違い